

文字摺通信

第 71 号

2024年 9月 1日

発行:文字摺歴史文化社

＝旧家訪問＝

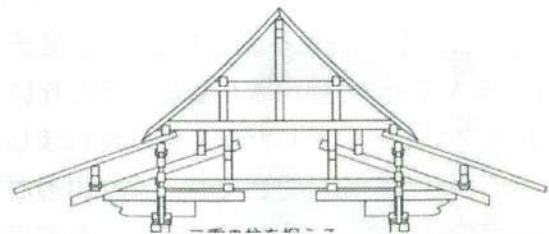
土船梅津司さん宅

6月22日(土) 信達歴史文化研究会例会は土船方面の文化財巡り。最初の訪問は、土船の旧家梅津司さん宅。広い敷地は土塀で囲まれ、西側にはイグネ(屋敷林)が吾妻おろしを防いでいました。まずは屋敷地をぐるっと廻って裏へ行くと、先達山のメガソーラ予定地の山肌が正面に見えました。イグネの中を歩き、裏門から入ると、かつては屋敷地内を流れていた水路跡がありました。旧家なんですね。氏神様を祀る祠があり、土蔵が数棟あります。かつては長屋門だった倉庫は車庫になっていました。

居宅は明治13年築の典型的な養蚕農家で、その前年に描かれた屋敷絵図がありました。二階の部屋から天井を開けて屋根裏を見せてもらいました。小屋組が、斜め材を使うトラス工法(洋組)と違って、垂直材で屋根を作る和小屋組になっています。明治13年建立がうなづける小屋組です。

いつも書いていることですが、福島市が県庁所在地になったのも、商都福島として繁栄したのも近世・近代・現代の養蚕製糸業に因るものですが、福島市にはそうした歴史の足跡を残そうという強い意志が感じられません。まずは、登録有形文化財として残し、福島市民に歴史を学ぶ教材を提供し、歴史・文化への誇りと地域への愛情を感じることができるような施策を実施してほしいものです。

梅津司家の庭には、福島市指定名勝の「土船の忍びの松」があります。この手入れは大変だと思います。居間に「忍びの松」の木版摺り絵が掛かっています。木版彩色画ですが、その左上に「忍之松 宝曆辛未元年版刻 昭和戊辰六三年版摺」とあります。そしてこの版木が次ページ上



【法隆寺金堂の小屋組】

らない」とあり、第28条に「小学校には、校長、教頭、**教諭**、養護教諭及び事務職員を置かなければならない」とあります。教師は**学習指導要領総則編**に「**教師**と生徒の信頼関係」とか「**教師**間の協力的な指導」など、生徒との関係で出てきます。職業としての名称は教員だと思えます。だから大学生がなりたいた職業に「**教師**」を挙げるのは、違うような気がします。職業名に「師」がつくのは、医師・看護師・教師・調教師（競馬）・技師・調理師・調律師などがあります。これに対して、介護士、弁護士、運転士・代議士・理学療法士などがあります。なんとなく「師」がつく職業が「上」「立派」な感じがするのは気のせいでしょうか。「師」がつく職業は、資格試験合格者という感じもしますが、「教師」に必要な資格は「教員免許状」です。また弁護士も理学療法士も国家資格が必要です。なお、野坂昭如の名作3部作に「エロ事師たち」「騒動師たち」「とむらい師たち」があります。これも面白いですよ。蛇足ですが、「騒動師たち」と「とむらい師たち」は岩波現代文庫に入っていますが、一番面白い「エロ事師たち」は入っていないようです。岩波倫理規定ですかね???

☆7月7日甲子園大会西東京大会2回戦で、知的障害のある生徒が通う都立青鳥特別支援学校野球部が単独チームとして初めて出場し、都立東村山西高校に5回コールド0対66で敗れましたが大きな拍手が送られ、明るい話題としてニュースで取り上げられました。テレビでは学校での練習風景が映されましたが、守備ではフライや



ライナーの打球への対応が覚束なく、危険性はないのかな?と疑問に思い、そして女子の参加を認めない高野連への疑問が湧きました。高野連が女子の参加を認めないのは、硬式野球は一つ間違えると命に関わり、危険だからというものです。参加を認められない女子は、別個に全国高等学校女子硬式野球選手権大会が開かれています。その技術面でのレベルは、男子の地方大会に出ても遜色のないほどです。今年は史上最多の61校が参加しました。福島県では学法石川と聖光学院の2校です。女子は女子だけの全国大会があるから良いというわけにはいかないのです。福島県で参加できるのはこの2校だけだからです。多くの高校スポーツは男女に分かれて行われています。それはそれで良いのです。ただ、福島県の例でいえば、上記2校に在籍している女子以外の女子は高校野球をすることができないのです。高校内では野球部への入部を認め、一緒に練習できるのに、大会になるとユニフォームを着ることさえも許されないのはどういうわけでしょうか。危険と判断されるほどの技術しかなければ、監督は試合には出しません。一律に危険だと高野連が決めるのではなく、個別の選手ごとに監督が体力や技術を見て判断するものだと思います。如何でしょうか。

☆毎日新聞が富山県で発行部数の減少により富山県内の販売が停止されました。富山県内での販売数が900部ないとのこと。ショックです。朝日は大丈夫かな?

『～ふくしまの歴史と文化財～文字摺通信』第71号 令和6年9月 1日(日)発行
発行：文字摺歴史文化社 代表：守谷 早苗
〒050-0820 富山県富山市南1-5-6 守谷 早苗
E-mail: miyabehiro@shibuhara.co.jp TEL: 076-434-9836